

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 視点1「興味・関心を高める必然性のある場面設定」


##### (1) 意欲を高める題材及びゴールの設定

児童が「知りたい！やってみたい！伝えたい！」と感じ、コミュニケーション活動の目的意識や必要感を持つことができるような題材を単元のゴールとして設定した。また、児童の発達段階や興味・関心、新たな発見があり伝えたい内容を考え、相手意識を持たせるような場面設定を行った。


##### (2) 身に付けさせたい力を明確にした活動の設定

児童が、目的や場面に応じて自分の伝えたい内容や表現を選んでコミュニケーションを図ることができるようにするために、単元全体を見通した単元計画を立てていった。ゴールにおける児童の姿をイメージし、「付けたい力」のためにどのような活動をどのような順序・方法で学習するのかを明確にすることで、児童は意欲的にコミュニケーション活動に取り組んだ。児童は、やりとりや発表の中で、それぞれの思いや願い、夢を伝え合った。

**思いを伝える**  
『オリジナルのうちわを作ろう』という場面を設定し、児童は家族が好きな形をデザインし、家族が喜ぶうちわを作成した。授業の最後には、自分の思いや家族への気持ちを伝え合った。



**願いを伝える**  
『夢の修学旅行に出かけよう』という場面を設定し、自分が本当に行きたい国、見たいものや食べたいものを紹介した。社会科と関連させ、いろいろな国について調べ学習を進め、パスポートを作成した。



**夢を伝える**  
『将来の夢に向けて時間割を立てよう』という場面を設定し、自分の将来の夢の実現に役立つ教科や自分が学習したい教科を選び時間割を立てた。授業の最後にはその夢を伝え合った。



#### 2 視点2「英語に慣れ親しませるための工夫」

##### (1) 語彙や表現に楽しく慣れ親しませる活動

チャンツやクイズ・ゲーム、読み聞かせを活用し、児童の意欲を低下させないように、ねらいに応じた活動を組み立てた。チャンツでは、テンポやパターンを変え、児童が飽きずに練習し、多くの発語につながるようにした。クイズやゲームを取り入れ、児童のやる気を高めた。繰り返し練習することで、自信を持たせ、全員が発音できているかを確認した。また、絵本の読み聞かせを行い、児童が楽しみながら話を聞いたり発語したりすることができるようにした。



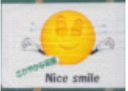

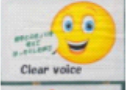

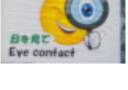
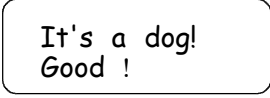
絵本の読み聞かせ

## (2) クラブルームイングリッシュの積極的使用とスモールトークの工夫

英語で始め英語で終わることを基本とし、全学年共通したクラブルームイングリッシュを使用した。校内研修の最初に「コミュニケーションタイム」を設定し、英会話を体験し、教師自身の英会話に対する戸惑いや抵抗感を軽減することができた。高学年で行ったスモールトークでは、既習表現を繰り返し使用することで定着を図るようにした。

### 3 視点3「コミュニケーション活動の工夫」

自分の思いや願い、夢を伝え合うことの楽しさや難しさを体験させることで、児童はコミュニケーションの大切さを実感する。児童の実態に応じたコミュニケーションの視点を明示し、相手を意識した豊かなコミュニケーションを体験させるようにした。豊かなコミュニケーションへの第一歩として対話をつなぐやりとりを行うようにした。相手の言葉を繰り返す、リアクション、問いかけなどを工夫していくことにした。

コミュニケーションのポイント		リアクション
	Smile Eye contact Clear Voice Rhythm Reaction Gesture	 <p>やりとりや発表の中で話を聞いた後の返しの言葉（相手の言葉を繰り返す、リアクション、問いかけ）が自然にできることを目指し、デモンストレーションALTとの会話の中で使うことを意識した。対話をつなぐことや会話をはずませることの大切さを伝えた。</p>
	児童の実態に応じて提示し、児童がポイントに気を付けてやりとりや発表ができるようにした。相手意識を高め、相手によく分かるように伝えることの大切さを確認し、よい例や悪い例を示すことで、児童がよりよいコミュニケーションに気付いた。	
		
		
		

### 4 視点4「評価の工夫」

#### (1) 評価場面、評価方法の工夫

活動途中の中間評価、終末の自己評価・相互評価を行った。中間評価では、やりとりや発表がよかった児童を紹介し、コミュニケーションのポイントを意識させたり、もっとやってみたいという意欲を高めたりした。自己評価・相互評価では、自己の頑張りや友達のがよかったところを発表し合う中で、担任やALTがほめたり励ましたりし、児童の達成感につながるようにした。

#### (2) 振り返りカードによる評価の工夫

児童が学習のめあてに沿って振り返り、自己評価や感想が記入できるようなカードを準備した。振り返りカードは、児童自身が自分の頑張りや成長を実感できることや指導者が児童の学習状況を把握し、次に生かすことをねらった。カードは簡単に記入できる内容にし、指導者が必ず点検するようにした。